

平成27年度 学校評価報告書

学校教育目標		意欲的に学び合い、心豊かでたくましく生き抜く子どもを育てる		重点目標	〇 既習を基に考えを深め合う子どもの育成 〇 自他を認め合い、共に高め合おうとする子どもの育成		
評価計画				自己評価		学校関係者評価	改善計画
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果〇と課題△)		コメント	次年度における改善策(案)
重点目標	確かな学力の向上 〇基礎基本の確実な定着 〇伝え合う力の育成 〇校内研修の充実 〇指導形態の工夫	〇学力向上プランの計画に基づいた実施と点検(全学級)	〇国語、算数の市販テスト結果のクラス平均80点以上	3	〇書く活動の視写に継続して取り組んだので、書く早さも速くなり、自分の伸びを知り意欲的に取り組むようになった。 〇学び合いでは、自分では思いつかなかった考えを友だちから聞くことができたことで、自分の考えと比べながら聞くこともできるようになってきた。 〇学び方については、全校で取り組むことができた。 △T Tや少人数等の指導形態を工夫・充実させる必要がある。	〇全般的に、学校の自己評価は4でも良いと思う。 〇書く活動や伝え合う力の育成に継続的に取り組んであり、確かな学力の向上に繋がっていると思う。 〇各種学力調査を総合的に判断すれば、学校の取組の成果は現れていると思う。 〇学校の核となる先生の育成も更に進めて欲しい。	〇書く活動をベースに話す・聞く活動を充実させ、一人ひとりの子どもたちが自分の考えを自分の言葉で伝えられるような『学び合い』の授業をめざして、校内研究に取り組んでいく。 〇校内・校外を問わず優れた授業実践を参観したり、各自の授業実践を参観し合ったりすることで、教師一人ひとりの実践力を育てていく。
		〇学び方の定着(学習規律、準備物、ノート指導等)	〇教師の自己評価(4段階3以上)	3			
		〇書く活動の充実(視写・短作文等のノート指導)	〇教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	4			
		〇伝え合う力の充実(ペア、グループ、全体)	〇教師の自己評価(4段階中3以上)	3			
		〇上官タイムの充実	〇上官タイムの計画的実施(週1回)	3			
		〇児童の実態に即した対応の充実(少人数指導(T T)、個別指導等)	〇教師の自己評価(4段階中3以上)	3			
に 関 す る 評 価	豊かな心の育成 ※自他を認め合う 〇道徳教育の充実 〇生徒指導の充実 〇読書活動の充実	〇道徳の時間の確実な実施	〇標準時数以上の確保(100%)	4	〇道徳の時間は、確実に実施できている。 △挨拶は良くできているが、時と場所、相手により差が見られる。 〇今後は読書の冊数を増やすより、じっくり読んで読書を楽しむ習慣を付けたい。 〇基本的な生活習慣の定着は、これまで以上に家庭の協力が必要である。	〇豊かな心の育成や生活習慣の定着は、学校だけではなく家庭の自覚と協力が不可欠だと思う。 〇読書は冊数だけでは無く、じっくり読む習慣の定着にも力を入れて欲しい。	〇新校では、上官小・大牟田小の子どもたちの良好な人間関係づくりに向け、特別活動を中心に取組を進める。 〇読み聞かせ会等を積極的に取り入れ、読書活動の充実を図る。
		〇気持ちの良い挨拶の徹底	〇教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	4			
		〇読書タイム、読書月間等を活用した読書の奨励	〇読書冊数の前年度よりの増加(前年度 14,462冊)	3			
		〇基本的な生活習慣の定着(早寝・早起き・朝ご飯の取組)	〇教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	3			
に 関 す る 評 価	体力向上 ※共に高め合う 〇体育科学習の充実 〇年間通した取組の充実 〇日常運動の推進	〇新体力テスト結果に基づく指導内容の重点化	〇全種目平均以上	3	〇新体力テストの結果、年々向上してきている。 〇体育科学習では運動量の確保を意識し、授業での場の工夫に取り組んだ。 〇わくわくスポーツ・業間運動等は、実施計画に基づき実施できた。 〇休み時間や放課後等、男女や異学年一緒に仲良く遊ぶ子どもが多く見られる。 〇休日なども、運動場で沢山の子どもたちが仲良く遊ぶ姿が見られる。	〇学校の取組と地域のスポーツ活動を通して、体力向上は確実に図られている。 〇先生方の指導の結果、成果は達成されている。 〇体力は児童の体格が大きく影響しているようだ。 〇地域での外遊びの楽しさを教えるためにも、地域に外遊びをする安全な場所の確保が必要だと思う。	〇体育科学習での、子どもたちの運動量を確保すると共に、運動に適した場づくりを工夫する。 〇縦割り活動等を取り入れ、異学年集団で楽しみながらスポーツに親しみ、体力向上を図る機会を設定する。 〇大牟田っ子ストレッチや大牟田体力検定などの取組を充実させる。
		〇体育科学習指導法の工夫改善(運動量の確保、場の設定等)	〇教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	3			
		〇わくわくスポーツ、業間運動等の計画的実施	〇教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	3			
		〇大牟田ストレッチ、大牟田体力検定の取組の充実	〇教師の自己評価(4段階中3以上)	4			
		〇外遊びの積極的奨励	〇教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	4			
い じ め	いじめを許さない心の育成 ※自他を認め合う心	〇いじめ対策の組織的対応(学校生活アンケート、無記名いじめアンケート等の計画的実施)	〇気になる回答への教育相談の実施及びその全ての解消	4	〇いじめに対して、組織的・早期対応ができる体制を整え、継続して取り組むことができている。 ※いじめ防止対策推進委員会等	〇組織的な対応やお互いに認め合う子ども、いじめを許さない心の育成に取り組まれている結果だと思う。	〇新校でも学校・保護者・地域の協力体制を作っていく。 〇地域等からの情報収集の手立てを検討し、より迅速な対応ができるよう工夫していく。
		〇各関係機関と連携した対応(いじめ防止推進委員会等)	〇教師の自己評価(4段階中3以上)	3			
不 登 校	共に高め合おうとする心の育成	〇不登校傾向児童への組織的対応と情報共有のための生徒指導部会の定例開催	〇教師の自己評価(4段階中3以上)	4	〇不登校傾向児童・保護者への対応は、組織的な対応ができている。 〇保護者・関係機関と連携して取り組み、不登校傾向児童や課題のある児童への対応は、組織的に取り組んでいる。	〇不登校傾向児童に対する迅速で適切な学校の対応が、子ども・保護者にも浸透してきている。	〇保護者の意識を変えるために、関係機関や地域との協力関係を作り、保護者に働きかける機会を増やしていく必要がある。
		〇各関係機関と連携した対応(S S W, S C, 教育相談室等)	〇教師の自己評価(4段階中3以上)	4			

◇ 評価について

- ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
- ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価はほぼ適切である C：自己評価はあまり適切でない D：自己評価は不適切である